年金だけで本当に大丈夫？ 将来への備えをしっかり考える！

高齢化社会を迎えている日本。今後年金といった社会保障制度に大きな影響が出ることが予想されています。将来に向けて自分自身で備えることが必要になってきています。

監修

世継祐子さん
ファイナンシャルプランナー
がん情報ナビゲーター

福岡県出身。久留米市役所での勤務経験を経て、法政大学法学部を卒業。2002年にファイナンシャル・プランナーの資格を取得。企業や個人の顧問ファイナンシャル・プランナー、各種セミナーの講師を務める。NPO法人「キャンサーネットジャパン」認定の「がん情報ナビゲーター」の資格を取得。テレビ・雑誌などのメディア取材多数。

http://www.ff-fukuoka.com

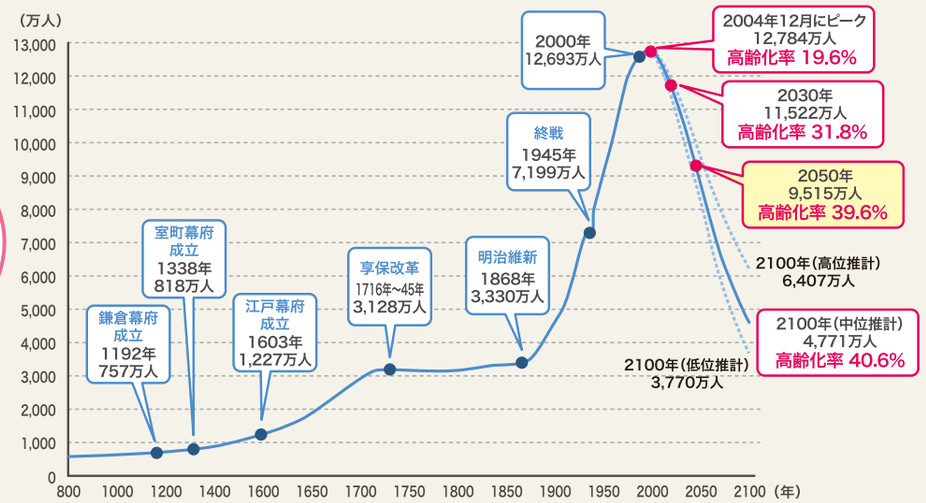
日本の公的年金制度には、5年ごとに、年金の財政収支の見通しをチェックする「財政検証」という仕組みがあります。わかりやすくいうと年金制度の健康診断のようなものです。平成26年はこの「財政検証」の年にあたり、厚生労働省のHPで内容が公表されています。急激な変化が起こっているのがわかります。

日本の人口は2004年をピークに、これから100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていくことが予想されています。この変化はいままでにない、急激な変化といえます。2004年の65歳以上の総人口に占める割合は19.6％ですが、2050年には39.6％まで増加すると予想されています。

仕事が定年を迎えたときに貯蓄がなかったらどうしよう…将来が少し心配です。正直年金のこともよくわかっていないのですが、貯蓄はやっぱり必要なのでしょうか。

32歳（福岡市在住）

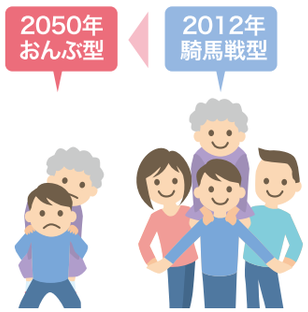
日本の人口は、今後100年間で100年前の水準へ戻ることが予想されています



（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同 平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」、国土庁 日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）をもとに、国土交通省国土計画局作成

今後予想される年金負担

昔は高齢者（65歳以上）1人に対して約9人の現役世代が支えている状況でした。高齢者1人の生活（年金）を9人の力（保険料）で支えている状況だと考えればイメージしやすいと思います。これは胴上げ型ともいわれています。2012年では高齢者1人に対して約2.6人で支えている状況（騎馬戦型）です。それが、2050年になると、高齢者1人に対して約1.2人（おんぶ型）で支えることになると言われています。まさに1対1で高齢者の年金を支えなければならないということです。



「じぶん年金」をしっかり準備する

定年を迎えたときに何も蓄えがなく、年金もまだもらえる年齢に達していなかったりすると、健康保険料なども払えなくなり、体調を崩してしまうと病院に行くことすら難しくなります。そうならないためには、お金に対する知識をつけて、1ヶ月でも若いときから、お金を貯めて増やす「じぶん年金」を準備しておくことが大切です。定年間際になってから始めようとしても手遅れのことが多く、やはり若いときからの積み重ねがものをいいます。

家計の中身を把握しておくこと

手持ちのお金をあるにまかせて使う「どんぶり勘定」を続けていると家計が破綻することも。家計の中身をしっかり把握することから始めてみてはいかがでしょう。公的な社会保障の変化に合わせて、民間保険の内容確認も必要です。本当に必要な保障は備えているか、必要のないものに加入していないか、保険料は上がっていくのかなど確認をしておきましょう。

保険料と貯蓄のバランスも大切です。老後の資金を貯めながら必要な分だけ民間の保険で備えるようにしましょう。60歳まで掛金が一律な県民共済も検討してみてはどうでしょう。